

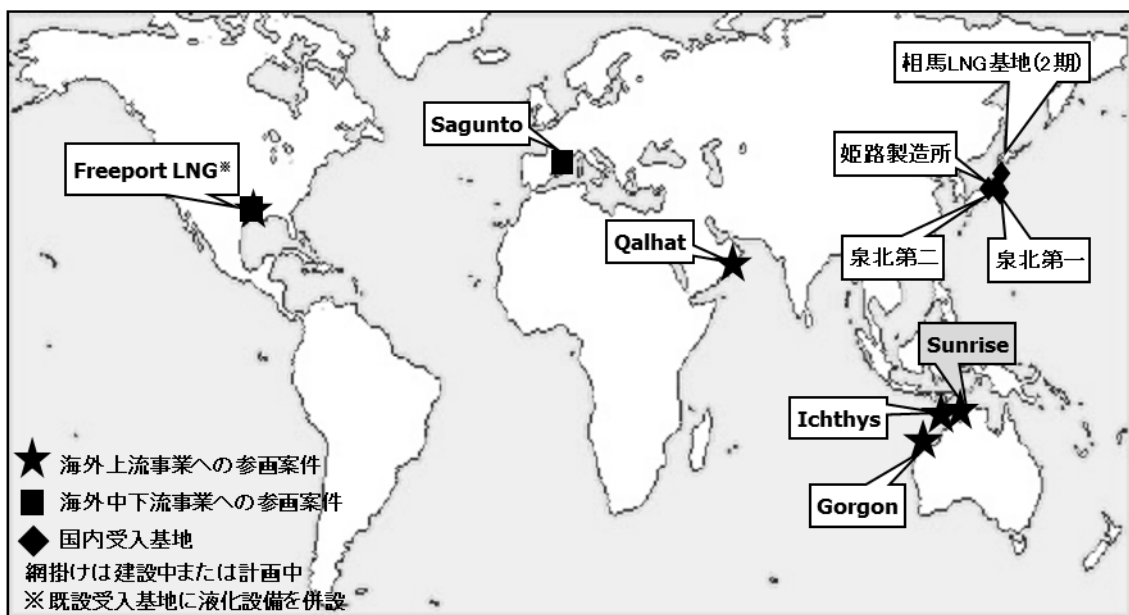
## 34. 大阪ガス

### (1) 企業概要

大阪ガスは、天然ガスの採掘・輸送から、都市ガス製造、発電、供給、販売、保安までを一貫して手掛けている総合エネルギー事業者である。また、国内・海外エネルギー事業以外では都市開発等を含むライフ&ビジネスソリューション事業も展開している。2020年3月末時点のガス供給件数は534.5件、低圧電気供給件数は132.2万件で、2019年度のガス販売量は7,362百万m<sup>3</sup>、電力販売量は13,189百万kWhだった。エネルギー事業者として早くから海外エネルギー事業に投資を進めており、北米や豪州等で油田・ガス田の権益を保有している。

2019年度の売上高は1兆3,686億円（前年同期比0.2%減）であり、当期純利益は417億円（前年同期比24.4%増）であった。セグメント別に見ると、国内エネルギー・ガス事業の売上高は、原料費調整制度によって都市ガス販売単価が高めに推移したものの、ガス販売量が減少したことなどにより9,737億円（前年同期比3.8%減）となった。また、国内エネルギー・電力事業の売上高は、電力販売量が増加したことなどにより2,048億円（前年同期比11.1%増）となっている。その他、海外エネルギー事業の売上高はLNG輸送収入の増加や前年度に取得した米国の天然ガス火力発電会社の貢献等により612億円（前年同期比51.3%増）であり、ライフ&ビジネスソリューション事業の売上は都市開発事業や情報ソリューション事業、材料ソリューション事業の販売増等により2,194億円（前年同期比4%増）であった。

大阪ガスのLNG海外参画案件と国内受入基地



(2) LNG 関連

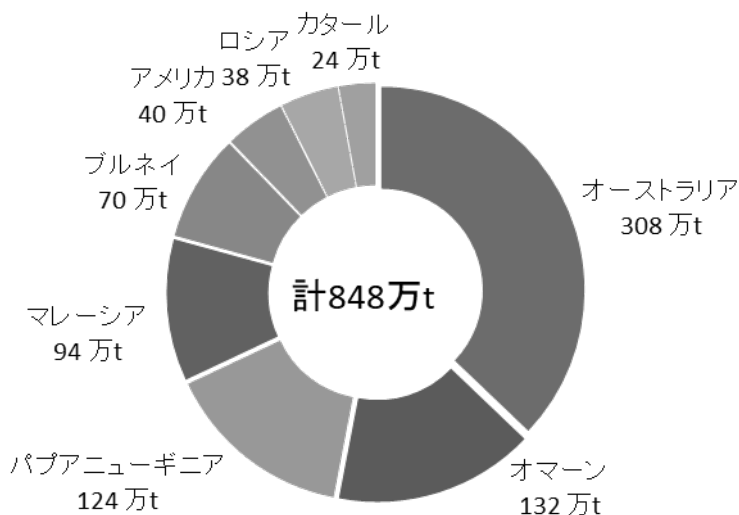
大阪ガスは、国内のガス事業で培ったノウハウやこれまでに構築した海外事業基盤を最大限活用し、天然ガスバリューチェーン全体のさらなる強化に取り組んでいる。

天然ガスの採掘・液化事業としては、豪州の Gorgon LNG や Ichthys LNG（稼働中）、Sunrise LNG（計画中）に加え、米国の Freeport LNG やオマーンの Qalhat LNG（稼働中）に参画している。同社は 2019 年 12 月、Freeport LNG の商業運転開始について発表を行った。第 1 系列液化会社が 2014 年 10 月に最終投資決定をして以来、約 5 年を経ての商業開始となった。今後は、第一系列液化会社との間の液化加工契約に基づき、約 232 万トンの LNG を引き取る事となる。

2019 年 7 月には、米国テキサス州のシェールガス開発事業者の全発行済株式を取得する株式売買契約を締結した。米国シェールガス開発会社の買収は日本企業として初めてである。これにより、大阪ガスは Freeport LNG 事業と発電事業に加え、シェールガス開発事業を米国エネルギー事業における 3 本目の柱に位置付け、さらなる収益拡大を進めている。

国内においては、海外から調達した LNG を国内の他エネルギー事業者に販売している。2012 年に沖縄電力、2014 年に静岡ガス、2016 年に広島ガスへと、その販路は拡大している。

大阪ガスグループの国別調達 LNG 実績(2019 年度)



## 大阪ガスグループが出資する LNG 液化プロジェクト

国名	プロジェクト名 (Train名)	液化能力 (万トン/年)	生産開始	出資者	主要 仕向地
オマーン	Qalhat LNG (Train 3)	330	2005年	Qalhat LNG (オマーン政府46.84%, Oman LNG 36.8%, Union Fenosa Gas (ENI 50%, Naturgy 50%) 7.36%, 三菱商事 3%, 伊藤忠商事 3%, 大阪ガスオーストラリア 3%)	アジア、 欧米
オーストラリア	Gorgon LNG (Train 1)	520	2016年	Chevron 47.333%, Shell 25%, ExxonMobil 25%, 大阪ガス 1.25%, 東京ガス 1%, JERA 0.417%	アジア
	(Train 2)	520	2016年		
	(Train 3)	520	2017年		
	Ichthys LNG	890	2018年	Ichthys LNG (INPEX 66.245%, Total 26%, CPC 2.625%, 東京ガス 1.575%, 大阪ガス 1.2%, 関西電力 1.2%, JERA 0.735%, 東邦ガス 0.42%)	アジア
	Sunrise LNG	N.A.	N.A.	東ティモール政府 56.56%、Woodside 33.44%、大阪ガス 10%	N.A.
アメリカ	Freeport LNG (既存受入基地に 併設)	1,500	2019年	Freeport LNG Development, LP(Limited Partner: Freeport LNG Investments, Global Infrastructure Partners, Turbo LNG(大阪ガス100%出資))	アジア
	(Train 2)		2020年		
	(Train 3)		2020年		
	(Train 4)	500	2026年 (計画中)	Freeport LNG-GP (運営管理会社、General Partner: Michael Smith 100%出資)	

## 大阪ガスグループの LNG 契約

輸出国	プロジェクト	契約期間 (契約年数)	契約数量 (万トン/年)	受渡条件
ブルネイ	Brunei LNG(Train 1-5)	2013～2023年 (10年)	37	DES
インドネシア	Bontang (73年契約・81年契約)	2011～2020年 (10年)	買主6社合計※1 2011～2015:200 2016～2020:100	DES
			買主6社合計※1 2011～2020:100	FOB
オーストラリア	North West Shelf(Train 4, 5)	2004～2034年 (30年)	100	FOB
	Gorgon LNG	2014～2039年 (25年)	137.5	FOB
	Ichthys LNG	2017～2031年 (15年)	80	FOB
オマーン	Oman LNG(Train 1, 2)	2000～2024年(25年)	66	FOB
	Qalhat LNG(Train 3)	2009～2025年 (17年)	80	FOB
カタール	Qatargas 1(Train 1-3)	1998～2021年 (24年)	35	DES
マレーシア	MLNG III (Tiga)	2004～2024年 (20年)	12	DES
	MLNG(Complex)	2009～2024年 (15年)	80	DES
ロシア	Sakhalin 2(Train 1, 2)	2008～2031年 (23年)	20	FOB
パプアニューギニア	PNG LNG	2014～2034年 (20年)	150	DES/FOB
アメリカ	Freeport LNG (Train1)	2018～2038年 (20年)	232	FOB (液化加工契約)
Shell Eastern Trading による 複数の供給源(ポートフォリオ契約)		2012～2037年 (25年)	80	DES

※ 大阪ガス、JERA、関西電力、九州電力、日本製鉄および東邦ガスの6社

## 大阪ガスが出資する受入基地

国名	基地名	出資者	受入能力 (万トン/年)	受入開始
日本	泉北製造所第一工場	大阪ガス	N.A.	1972年
	泉北製造所第二工場	大阪ガス		1977年
	姫路製造所	大阪ガス	N.A.	1984年
	相馬LNG基地(2期)	福島ガス発電(石油資源開発 33%、三井物産 29%、大阪ガス 20%、三菱ガス化学 9%、北海道電力 9%)	N.A.	2020年
アメリカ	Freeport LNG (液化基地を併設)	Freeport LNG Development, L.P. (Limited Partner: Freeport LNG Investments, Global Infrastructure Partners, Turbo LNG(大阪ガス100%出資)). Freeport LNG-GP (Freeport LNGの運営管理会社、General Partner: Michael Smith 100%出資)	1,300	2008年
スペイン	Sagunto LNG	Saggas ( Enagas 72.5%, 大阪ガス 20%, OmanOil 7.5%)	640	2006年

## (3) 今後の戦略

大阪ガスは2017年3月、2030年度に向けた「長期経営ビジョン2030」を策定した。「長期経営ビジョン2030」では、“2030年度に目指す姿”として、2030年度の連結経常利益を2017年度の3倍程度とすることを目指しており、また海外事業をさらに成長させることで、2030年度には連結経常利益の海外事業と国内事業の比率を1対2の割合まで高めるとしている。また、小売・エネルギーサービス・トレーディング等により国内外で関与する天然ガス及びLNGの取引量を拡大させる意向で、2016年時点での960万トンから2030年度には1,700万トンまで成長させる計画である。

広域での競争力のあるインフラ構築やエネルギー&サービスの展開として、再生可能エネルギー電源や高効率な天然ガス発電所に注力している。同社が20%出資する福島ガス発電所は2020年4月に1号機、2020年8月には2号機が営業運転を開始した。また、2020年3月にアカシアと協力協定を締結し、佐賀県唐津市沖で最大75基の洋上風力発電事業を検討している。

2018年4月、大阪ガスは中部電力と提携して、首都圏における電力・ガス及び暮らしやビジネスに関するサービスの販売を行うCDエナジーダイレクトを設立した。互いの経営資源やノウハウを組み合わせ、国内においても商圏エリアの拡大を図っている。また、2020年4月、JERAとENEOSと共同出資している扇島都市ガス供給は都市ガス製造・供給設備の商業運転を開始した。年間110万トン程度の都市ガスを製造し、JERAは主に品川火力発電所の発電用燃料用として、ENEOSと大阪ガスは都市ガス小売などに活用する。

海外エネルギー事業としてアジアでのバリューチェーンノウハウを活かしたビジネス参画の検討を行っている。その一環として、大阪ガスの100%子会社である大阪ガスリキッドはSQC Investment社と出資契約を締結し、SQC Investment社が保有するベトナムの産業ガス製造・販売会社であるSing Industrial Gas Vietnam社へ大阪ガスリキッド社員を派遣し、ベトナムにおける産業ガス製造・販売事業に参画する。